

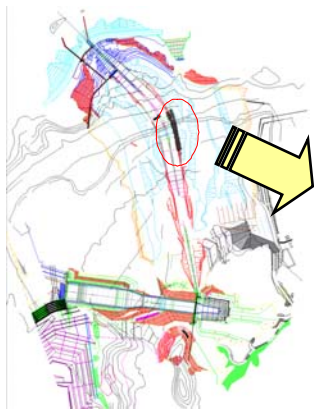


施工①《施工管理の効率化》

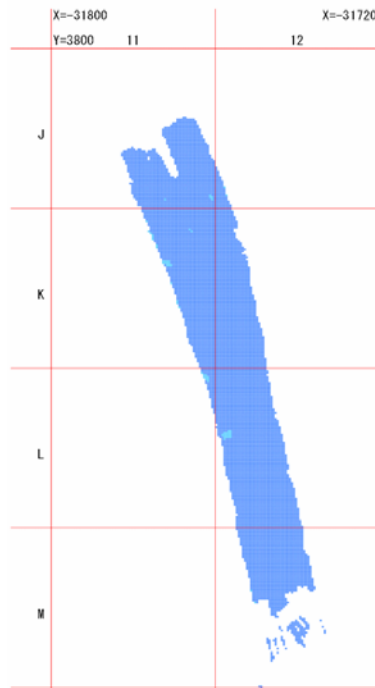
『振動ローラの加速度応答による面的な
品質管理技術』による情報化施工
－ α システム －

システム導入による施工効率の合理化の可能性(一例)

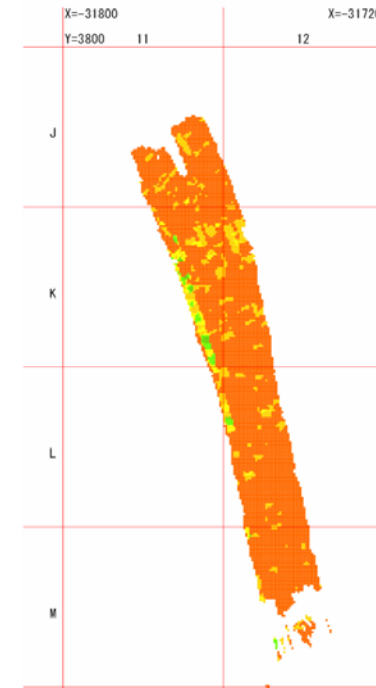
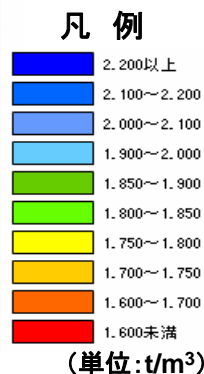
- 管理基準密度 (2.0t/m³) 以上となる最小転圧回数(例;粗粒材)



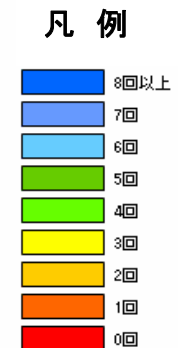
平面位置図



最終転圧回数
での密度表示



2.0t/m³以上となる最小転圧回数分布



現行の規定転圧回数6回 ⇒ 4回転圧:約3割の施工効率の向上

メリット; 当技術を導入することで、転圧1回ごとにリアルタイムに確実な状況把握ができることから、施工方法の合理化が可能となる。



共通②《情報の一元管理(協同意識向上)》

土工事における導入事例

- 3次元情報とαシステムによる情報化施工

3次元情報とαシステムによる情報化施工の概要

1. 施工計画

Autodesk Civil 3D を利用して、施工範囲、敷均し高さ、規定転圧回数などを指定。DBに登録。



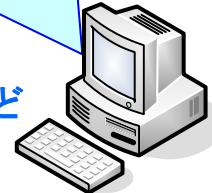
DBに施工計画データを登録

情報共有

3Dプロダクトデータ

3. 出来形品質管理

DBに登録された施工結果データを規定条件で抽出し、CAD上で3D表示し、管理断面別の進捗図や出来形図の作成を行う。

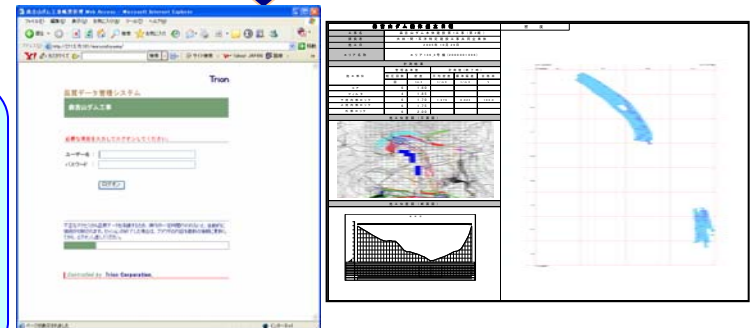


施工結果確認
転圧回数・出来形データなど

4. 施工データの表示管理

DBに登録された施工結果データを規定条件で抽出・表示を行う。

インターネットを介した
データ配信・出力

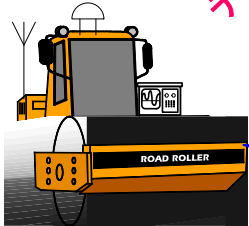


2. 施工データ取得

DBに登録された施工計画を取得し、施工を行う。施工時に取得される敷均し軌跡や転圧回数、加速度データを管理し、DBに登録。

DBに登録された施工計画
データ取得し、施工を開始

施工結果データ
敷均し軌跡・転圧回数・
締固め度データ



(転圧回数、
乱れ率管理)

